

1 仙台市子ども読書活動推進計画(第三次)について

(1) 計画の策定

平成13年に制定された「子どもの読書活動の推進に関する法律」に基づき政府が策定している「子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」を踏まえ、仙台市においても、平成16年から仙台市子ども読書活動推進計画の第一次計画、平成24年から第二次計画を策定して子どもの読書活動推進に取り組んできました。

現在は、平成29年1月に、第二次計画期間で見た課題などを踏まえ新たに策定した「仙台市子ども読書活動推進計画(第三次)」(以下「第三次計画」)に基づき、平成29年度から令和3年度(平成33年度)までの5年間の計画期間のなかで様々な取組を推進しています。

(2) 計画の目的と基本の方針

計画の目的

子どもが自ら読書に楽しみ、人生をより深くより豊かに生きる力を身に付けることができる読書環境をつくる

第三次計画では、子どもが読書に親しむだけでなく、自ら進んで楽しく読書することを通して、様々な知識や経験や考え方に触れ、身近なことから国際的・専門的なことまで幅広く多くのことを学び、人生をより深くより豊かに生きる力が身に付けられるよう、多様な読書活動ができる環境づくりを目指しています。

また、この目的を達成するために次の4つの基本の方針を掲げています。

基本の方針

(1) 子どもが読書に親しむ機会の提供

子どもが読書の楽しさ、大切さを知ることができるよう、家庭、地域、学校等において子どもが読書に親しむ機会を幅広く提供していきます。また、子どもの発達段階に応じた読書支援を行い、子どもが読書を継続的に楽しむことのできる力を育てます。

(2) 子どもの読書環境の整備・充実

子どもが自ら足を運び、本を手に取りやすい読書環境の整備・充実を図るとともに、子どもの読書活動を支える人材の育成や支援に取り組めます。

(3) 子どもの読書に関する理解の促進

子どもの身近にいる大人に対し、読書の意義や大切さについて啓発活動を行うとともに、子どもだけでなく大人も読書に親しめる環境づくりを通じて、社会全体で子どもの読書活動を推進します。

(4) 家庭、地域、学校、図書館、ボランティアなどの連携・協力

子どもの読書活動を取り巻く様々な主体が相互に協力し、連携を図りながら計画を推進します。

(3) 成果指標

計画の推進状況把握のため、目的達成と関連性のある指標について成果指標を設定しています。

しかし、読書活動の数量的な広がりだけを求めるのではなく、子どもたちの感性を磨き、表現力を高め、創造力を育むことのできるような質の高い読書活動を広めていくことも必要です。

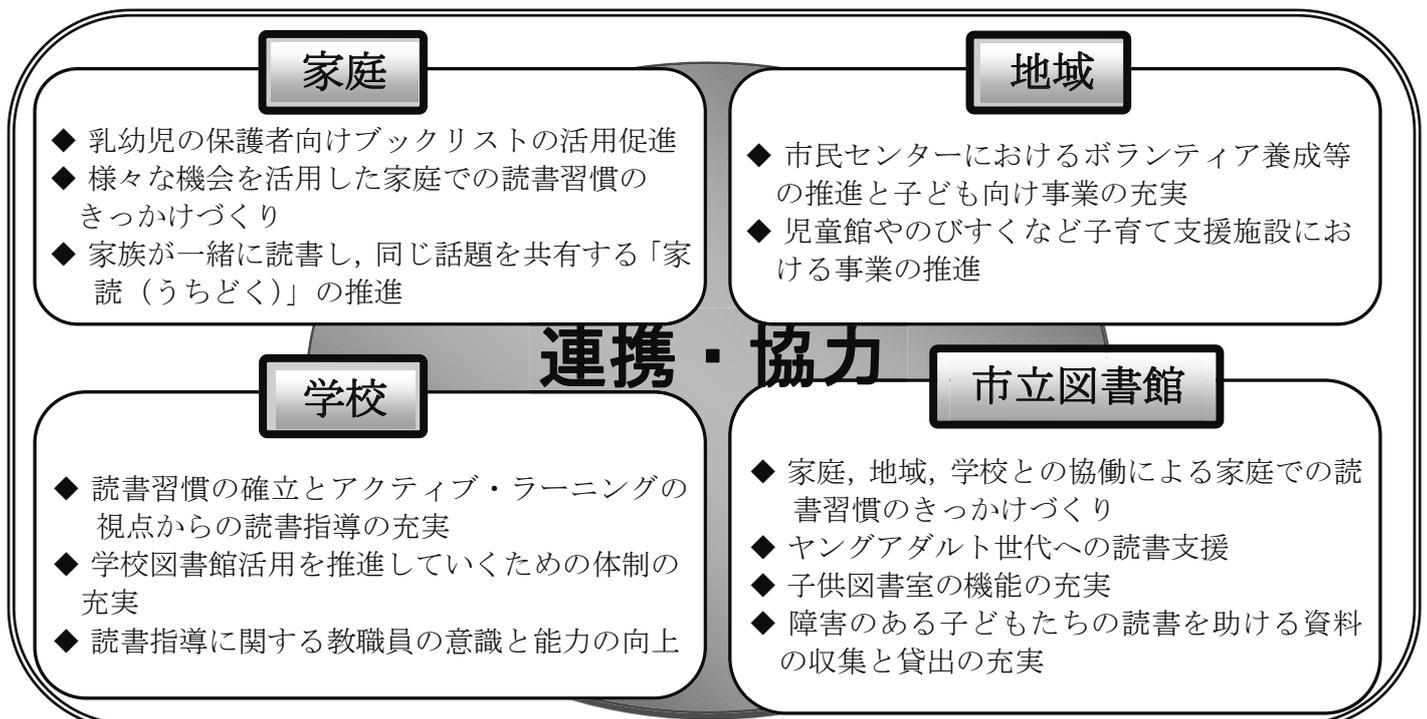
成果指標		第二次実績 (平成 28 年 度)	第三次目標 (平成 33 年 度)
家や図書館でふだん(月～金) 1日に 30 分以上読書する児童・生徒の割合(教科書, 参考書, 漫画, 雑誌を除く。)	小 6	39.3%	45.0%
	中 3	30.8%	35.0%
昼休みや放課後, 学校が休みの日に, 学校図書館や地域の図書館へ月 1 回以上行く児童生徒の割合	小 6	39.4%	45.0%
	中 3	18.5%	25.0%
市立図書館児童書蔵書冊数 (15 歳以下 1 人あたりの平均蔵書冊数)		5.2 冊	5.5 冊
市立図書館児童書貸出冊数 (15 歳以下 1 人あたり年間平均貸出冊数)		9.0 冊	10.5 冊
市立小・中学校の学校図書館貸出冊数 (1 人あたりの年間平均貸出冊数)	小	39.8 冊	37 冊(※1)
	中	6.3 冊	9 冊
市立図書館おはなし会参加人数		12,249 名	12,000 名
1 か月に 1 冊も本を読まない子どもの数(不読率)	小	—	3%(※2)
	中	—	12%(※2)

※1 計画期間中, 毎年度 37 冊を目標とする。

※2 平成 28 年度子どもの読書活動に関するアンケート調査では, 仙台市の不読率は小学生 5.9%, 中学生 16.5%。国の第三次基本計画では, 計画 5 年目の平成 29 年度の指標として, 小学生 3%以下, 中学生 12%以下として設定している。

(4) 重点的な取組

計画の目的を達成するために, 4つの基本方針のもと, 家庭・地域・学校・図書館という4つのフィールドにおける重点的な取組を掲げ, 計画の推進を図っています。



2 仙台市学校図書館運営モデル校事業

(1) 計画における位置づけ・事業概要

第三次計画では、学校における重点的な取組として「学校図書館活用を推進していくための体制の充実」を掲げており、その具体的取組の1つとして平成29年度より開始したのが「学校図書館運営モデル校事業」です。

当事業では、学校図書館を利用する児童生徒を増やし、子どもの読書に対する興味関心を喚起するための取組推進を目的として、学校図書館運営に関し特色のある取組をする学校を学校図書館運営モデル校に認定し、図書購入費などの重点配分を行います。

令和元年度は、学校図書館運営に関し先進的・特徴的な取組を実施している学校や今後の取組を期待する学校などをモデル校に認定し、図書購入費及び備品購入費の重点配分を行いました。

＜令和元年度モデル校＞

学校種別	学校名	重点配分額 (図書購入費)	重点配分額 (備品購入費)
小学校 (7校)	東仙台小学校	150千円/校	85千円/校
	太白小学校		
	川前小学校		
	将監小学校		
	将監中央小学校		
	栗生小学校		
	錦ヶ丘小学校		
中学校 (2校)	南光台東中学校		
	宮城野中学校		
特別支援学校 (1校)	鶴谷特別支援学校		

(2) 令和元年度モデル校の取組事例紹介

各モデル校において、読書に関する課題や当事業実施に当たり定めた実施目標のもと、重点配分予算を活用した図書購入や備品等購入による読書環境整備、それらを含め図書館運営・利活用に関する様々な取組が行われました。

図書については、選書会を開催し児童生徒や教員、図書ボランティアや保護者が選んだ図書を購入した学校が多く見られます。大型絵本の購入による読み聞かせの強化や、テーマ性を持って蔵書を充実させた例も見られました。

また備品についても、蔵書整理の他、教室にも本を配架するための移動式書架や、新たな学習スペースの設置等、読書啓発・環境整備のための工夫した取組を実践していただいています。

東仙台小学校

【児童数：464人】

(R元.5.1現在)

◆ モデル校としての目標 ◆

図書室の環境や役割，図書の整備を図ることによって，児童の読書意欲を喚起し読書量の増加を目指す。

学校における読書や学校図書館の状況・課題

- 蔵書数は多いものの，古い本が多く児童の読書意欲が刺激され難い。
- 各学年へのブックトラックの整備を進め，複数年計画で各学年1台の配備を目指す。

取組内容 ※【新】=新規取組 【継】=継続取組

1 図書室の機能や収納蔵書の分散化による図書室環境の改善【新】

【各学年の廊下：継続的展示・収納】

- 教科書で紹介されている本を，ブックトラックを利用し各学年の廊下に継続的に展示・収納した。
- ブックトラックを配置できなかった学年を中心に折りたたみコンテナを廊下に設置，ブックトラックの代用として教科書で紹介されている本を展示・収納した。
- 教科書で紹介されている本を複数購入し，学年展示・収納用と図書室展示・収納用とした。



2 蔵書のリニューアル【継】

貸し出しが多く，特に傷みの激しい本を中心にリニューアルを行った。

取組による効果

1 ブックトラックや折りたたみコンテナを利活用した図書環境の整備

- ブックトラックの廊下配置により，教室間の移動が簡単にできることで図書館蔵書の授業での活用が図られ，読書意欲の喚起と読書量の増加も図ることができた。
- 折りたたみコンテナの利活用は，身近な場所での展示・収納による利便性が高く，授業での活用を図ることができた。ブックトラックとの組み合わせの効果も図ることができた。

【折りたたみコンテナを利用した書架】



【利用時の様子】



2 読書意欲の喚起

- 図書館蔵書をリニューアルし、教科書で紹介されている本を複数そろえることで、児童の読書意欲にタイムリーに応えやすくなり、児童の1か月の平均読書数の大幅な向上につながった。

【児童の1か月平均読書数の比較】

冊数	0冊	1～2冊	3～4冊	5～10冊	11冊以上	無回答等
H30年度	18人	61人	101人	165人	76人	16人
R元年度	0人	31人	85人	182人	158人	8人

目標の達成状況

- ブックトラックを配置できた学年では、図書館蔵書の授業での活用を図ることができた。また、それに合わせて読書意欲の喚起と読書量の増加も図ることができた。
- 折りたたみコンテナも身近な場所での展示・収納よる利便性は高く、授業での活用を図ることができた。ブックトラックとの組み合わせの効果も図ることができた。

取組を振り返って

- ブックトラックの効果は大きいものがあった。最低各学年1台ずつは配備できるようにしていきたい。将来的には各学級1台ずつ配置し、図書室の収納蔵書の分散化と図書の授業での活用を図っていきたい。
- 汚損の激しい本や新刊本を中心に購入してきたが、まだまだ古い本は多く残っており、社会科関係の資料など現在にそぐわない本もある。今後も蔵書のリニューアルを進めていく。

◆ 注目 POINT ◆

- 昨年度の特設教室への蔵書配架による図書室機能の分散化に加えて、各学年へのブックトラックや折りたたみコンテナによる蔵書配架により、図書室機能の分散化をさらに進めることができた。
そのおかげで、リニューアルした蔵書の視覚的・機能的に効果的な配架を行うことができるなど、図書室の読書環境の整備・充実を図ることが可能になる。
- 授業で取り扱う本を複数そろえることは、児童の読書意欲にタイムリーに応えることとなり、さらなる意欲の喚起を図ることへもつながった。ブックトークで紹介された本も学校図書館で複数そろえるようにするなど、さらに広げることのできる取組である。

太白小学校

【児童数：193人】

(R元. 5. 1現在)

◆ 事業実施目標 ◆

児童が読書に親しみやすい図書室の環境整備を進め、より多くの児童が図書室に足を運んで読書に励むようにする。

学校における読書や学校図書館の状況・課題

- 学年が上がるにつれて、図書室を利用する児童が固定化されている。
- 読む本のジャンルが広がらず、読み物に興味を持つ児童が限られている。

取組内容 ※【新】=新規取組 【継】=継続取組

1 児童・教師・保護者による選書会の実施【継】

児童・教師・保護者による選書会を行い、選書会の結果をもとに図書購入した。

【図書館まつりの様子】

2 図書館まつりの実施【継】

読書週間を設定し、教職員によるおすすめの本の紹介、学年ごとに内容の異なる図書館クイズ、図書委員による読み聞かせを行った。



3 コロコロ文庫(移動書架)の設置【継】

教室前に移動書架を設置し、毎週金曜日の朝に実施している読書タイムや隙間時間に気軽に図書を手に取れる環境を整備した。

【読み聞かせ後の掲示】

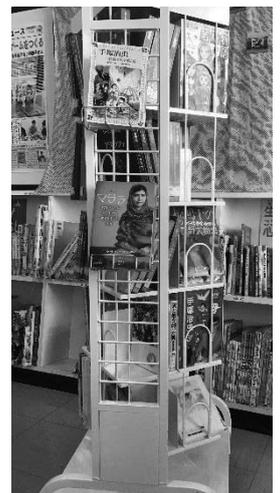
【回転書架】

4 図書ボランティアによる読み聞かせの実施【継】

月に一度、読書タイムの時間に図書ボランティアの協力を得て読み聞かせを実施した。

5 回転書架の設置【新】

図書費で歴史上の人物や著名人の伝記、名作シリーズを購入、備品購入費で購入した回転書架に配置して、手に取りやすい図書館のカウンター前に設置した。



取組による効果

1 児童・教師・保護者による選書会の実施

- たくさんの本にふれることができ、自分の意見が運営に反映された喜びを感じることができる。選書会は図書と学校図書館に興味を持つ良いきっかけとなった。
- 保護者にも参加してもらったことで家庭での読書習慣への意識付けにつながった。

2 図書館まつりの実施

図書館クイズに関する本や教職員のおすすめ本を手に取りやすいように展示したところ、児童たちが進んで手にとっており、図書館や本を身近に感じさせることができた。

3 コロコロ文庫（移動書架）の設置

- 教室のすぐそばに本を置くことで、児童は隙間の時間に本を手にとることができ、気軽に本に親しむことができた。
- 国語の並行読書もスムーズに行うことができた。

4 図書ボランティアによる読み聞かせの実施

図書ボランティアによる読み聞かせでは、読んだ本が図書室にあることを児童に伝え、図書室に足を向けるきっかけになった。

5 回転書架の設置

伝記と、その伝記の人物に関連する名作などの本を手に取りやすいように回転書架に配置することで、伝記だけでなくシートン動物記などの名作にも児童の興味関心を持たせることにつながった。

目標の達成状況

- 今年度は児童が読書に親しみやすい図書室の環境整備に取り組んだ。
- 歴史上の人物だけでなく、マララさんやネルソン・マンデラさんのような児童が興味を持つような人物の伝記も購入して手に取りやすい回転書架に配置した結果、伝記やそれに関連する図書の貸し出し数が増え、児童の読む本のジャンルを広げることにつながった。

取組を振り返って

- 太白小では、協働型学校評価重点目標を「自分のめあてや夢に向かって頑張る子供」として、特に学力向上に焦点を当てて様々な方策を講じている。その一つの方策として「読書活動の推進」を掲げ意識して取り組んでいる。今年度は図書館運営モデル校として、気軽に本を手にとれる環境の整備や児童による選書会、図書館まつりなど、児童が本に興味を持つ様々な工夫を実施した。児童が本に興味をもつ工夫を行うことは読書活動の充実に効果的だったと感じた。
- 今後は、図書館の環境整備を続けるとともに、家庭の読書意識を高める働きかけや、授業に関連させた利用を促すなど、教職員や保護者の意識を高める工夫を行い、児童の読書活動が更に活発になる取組を行っていきたい。

◆ 注目 POINT ◆

- いつでも興味のある本を読めるコロコロ文庫の設置した。
- 回転書架に関連読書のおすすめを年間を通して行い、児童の関心を広げた。
- 図書館まつりで楽しく本にふれる時間を設定した。

川前小学校

【児童数：484人】

(R元. 5. 1現在)

◆ モデル校としての目標 ◆

文章量の多い図書を進んで選び、じっくりと読む活動を通し、生涯に渡る豊かな読書生活を営む素地を養う。図書館活用のスキルを身に付けさせ、図書館環境の充実を図る。

学校における読書や学校図書館の状況・課題

- 学校図書館の貸し出し冊数は一見多いように見受けられるが、傾向として学習漫画や図鑑を好む児童が多い。
- 文章量が多い良質な図書の貸し出し冊数は限定的となっている。

取組内容 ※【新】＝新規取組 【継】＝継続取組

1 読書活動年間指導計画の作成【新】

- 1～4年生を対象に読書活動年間指導計画を作成。
- 図書館活用のスキルを身に付けることができるようにした。

【図書館目標・展示コーナー】



2 読書活動のめあて提示【新】

- 月毎の「読書活動のめあて」に関連した展示コーナーを設置。
- 児童が進んで文章量の多い良質な図書を選ぶことができるようにした。

3 必読書の設定【継】

- 学年毎に0～9類の必読書を設定。
- いろいろなジャンルの図書を読むことができるようにした。



4 読み聞かせとブックトークの実施【継】

- 1～4年生を対象にボランティアによる読み聞かせを実施し、読書への興味・関心を高めた。
- 5・6年生には、テーマに基づいたブックトークを行い読書活動に幅を持たせた。

取組による効果

1 読書活動年間指導計画の作成

国語科の図書館活用の授業や並行読書、調べ学習がより効果的に行われるようになった。

2 読書活動のめあて提示

いつも学習漫画ばかりを好んで読んでいた児童や図書室の膨大な本から何を読めばよいか分からずに本を選びかねていた児童が、進んで関連コーナーの本を読む姿が見られた。

3 必読書の設定

- 読む本が偏らずいろいろなジャンルの図書に挑戦することができた。
- 「もう一冊借りられる券」を「必読賞」の賞品とした試みは、児童にとって魅力があり、効果的であった。

【ブックトーク 6年生「戦争」】

4 読み聞かせとブックトークの実施

- 読み聞かせボランティアによる優れた選書によって児童は良質な図書と出会うとともに、読み聞かせの世界に引き込まれていく様子が見られた。
- 5・6年生でブックトークを行うことで、本離れになりがちな高学年児童に本の良さを再発見させることができた。市民図書館から借りた関連図書もよく読んでいた。



目標の達成状況

- 昨年度に比べて年間平均貸出冊数の大幅な増加はなかったが、調べ学習の際に学級担任が授業用の図書を借りたり図書館を活用する機会が増えたりした。そのため、児童に図書館活用のスキルを身に付けさせることができた。
- 調べ学習の授業の後には、自ら図書を借りて学習理解を深めようとする児童の姿も見られた。自由貸し出し図書と学習用貸し出し図書をそれぞれ借りることができるようにすると、より一層貸し出し冊数が増加すると期待できるので、今後検討していきたい。

取組を振り返って

- 図書館教育年間指導計画を作成し、教職員に図書館教育の意義や必要性を伝えることで、教職員の図書館活用の意識改革を行うことができた。また、図書館における情報センターとしての機能を発揮させるために、0～8類までの図書を計画的に整備することが大切であると改めて感じた。
- ボランティアによる読み聞かせやブックトーク、図書委員会による図書祭りなどの行事の際には、一時的に図書館利用率は上がるが、まだまだ定着には至らない。
- 読書習慣の定着には、家庭における本についての話題や保護者自身が読書の習慣を持つことが大切だと考えられることから、今後は「家庭読書の日」を設定し、家庭にも協力を求める活動を行ってきたい。

◆ 注目 POINT ◆

- 児童と教師をつなぐ図書館、児童と地域の方々をつなぐ図書館運営を目指した。
- 図書館活用のスキルが向上する仕掛けがある図書館環境の整備を心掛けた。

将監小学校

【児童数：356人】

（R元. 5. 1現在）

◆ 事業実施目標 ◆

学年に応じた必読書を設定したり、図書館活用を図ったりすることで、良書に触れる機会を作る。月平均読書冊数2冊以下の割合10%以下を目指す。

学校における読書や学校図書館の状況・課題

- 軽読書の傾向があり、絵本から読み物への移行がうまくできない児童が多い。
- 読書量の2極化が見られ、読む児童と読まない児童の差が大きい。

取組内容 ※【新】=新規取組 【継】=継続取組

1 児童・保護者による選書会の実施【継】

- 図書館運営に関わる機会づくり、本への興味関心を高めるため、児童や保護者による選書会を実施した。
- 児童が読みたいと思う本、保護者が読ませたいと思う本を積極的に購入した。

【児童による選書会の様子】



2 図書ボランティアによる選書【新】

- ボランティアによる読み聞かせが行われた本や、ボランティアが薦める本を購入・展示・貸し出した。
- 選書してもらった本で朝の読み聞かせを行い、使用後は図書館資料として児童が使用した。

【読み聞かせボランティア】

3 本校図書館推薦図書の設定【新】

良書への読書喚起のため、学期毎に7冊の推薦図書を決め、「ラッキーセブンカード」や「図書館パスポート」等のスタンプカードを使って読むことを推奨した。

4 「家読の日」の設定【継・拡】

- 毎月第2・4金曜日を「家読の日」とし、保護者にも声掛けをしながら、読書習慣の確立を図った。
- 全学年で家庭学習カードに「家読デー・2冊貸出デー」の欄を設け、日常化を図った。



5 移動書架の設置【新】

配当された予算で移動書架を5台購入し、気軽に図書を手に取れる環境を整備した。

取組による効果

1 児童・保護者による選書会の実施

自分達のリクエストで購入した本は、利用率が高く、読書推進に役立った。

2 図書ボランティアによる選書

読み聞かせに適した本を図書館資料として整備することができた。

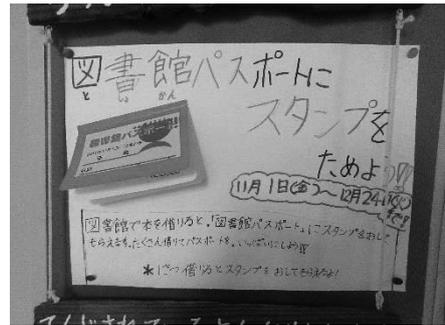
【図書館パスポート】

3 本校図書館推薦図書の設定

ゲーム性・話題性もあり、図書館への来館意欲をかきたてた。

4 「家読の日」の設定

- 「家読デー」は2冊貸出デーとし、児童にも好評で、金曜日の来館者数が増えた。
- 図書館便りや家庭学習カードなどで保護者へも「家読デー」が周知され、保護者からその情報を聞いた低学年の児童も2冊貸出デーを楽しみにしていた。



5 移動書架の設置

- 学年貸出でたくさんの本が教室に持ち出され、移動書架があることで学級間を本が往き来しやすくなった。
- 学年貸出により、教師が選んだ本を読む機会を増やすことができた。
- 軽読書傾向への対策としても有効であった。

目標の達成状況

- 1か月の平均読書冊数が2冊以下の児童の人数は356人中30人、割合は8.4%で、目標としていた10%以下を達成することができた。
- 学期毎の読書量では、全体のおよそ3分の1の児童が30冊以上、月平均5冊程度読んだことになる。また、年間で100冊以上読んだ児童は40人を超えた。
- 図書館の貸出数は、児童数が減少しているにもかかわらず、前年度比およそ2,000冊増だった。教師がテーマ読書を取り入れた授業づくりをしたこともあり、軽読書に偏らない読書体験をさせることができた。

取組を振り返って

- 教職員・保護者・ボランティアがそれぞれの立場で読書に結びつく働きかけを続けること、新鮮さを失わないことが、豊かな読書体験につながると考える。
- 「家読2冊貸出デー」や「選書会」「子ども・保護者からのリクエスト募集」が定着しつつある。また、月毎のテーマ展示や図書館イベントの開催で、常に図書館が活性化していることも、児童の来館意欲だけでなく、保護者・地域の方の関心を高めていると思われる。
- 移動書架が使えるようになったことで、教室を図書館の分室のように機能させることができた。担任の「図書館を活用した授業づくり」の一助になった。

◆ 注目 POINT ◆

- 選書会やイベントなど短期間で終わるものと、「図書館パスポート」や「家読デー」のように長期間にわたる取り組みとを組み合わせ、常に子供と図書館をつなぐ活動をすることで成果を上げている。
- 家庭学習カードに「家読デー」の欄を設けることで、児童・保護者と担任が一緒に取り組むことが定着してきた。

将監中央小学校

【児童数：523人】

(R元. 5. 1現在)

◆ モデル校としての目標 ◆

児童が本に親しみやすい環境を整備し、保護者の関心を高めることで、読書習慣の確立を図り、年間30冊以上読書する児童の割合50%を目指す。

学校における読書や学校図書館の状況・課題

- 本を読む児童と読まない児童の二極化がある。学年が上がるにつれ、年間読書冊数が減少している。
- 蔵書が古いものが多い。

取組内容 ※【新】=新規取組 【継】=継続取組

1 児童・保護者による選書会の実施（児童【継】・保護者【新】）

- 巡回図書を利用して、児童による選書会を実施し、選書会をもとに図書購入を行った。
- 今回は保護者や読み聞かせボランティアにも参加してもらい、児童に読ませたい本を購入した。

【選書会の新着図書】



【選書会の様子】



2 「家庭読書の日」の設定【新】

- 毎月最終週の土・日曜を「家庭読書の日」とし、図書便りや家庭学習カードにより周知を図った。
- 図書日より「おすすめの家読本」の紹介を呼びかけ、職員室前の「うちどくポスト」に記入した用紙を入れてもらった。「家読本紹介カード」と紹介された本を掲示して、保護者にも見ていただくようにした。

【うちどくポスト】



3 移動書架の設置【新】

高学年の教室近くに移動書架を設置し、図書室以外でも本に親しめる環境を整備した。

4 調べ学習の充実【新】

図書費で購入した図鑑セットを図書室で移動書架に展示し、付録のDVDと一緒に貸し出した。また、折り畳みコンテナを利用し、国語の並行読書や総合的な学習等で使用する資料を教室に貸し出した。

取組による効果

1 児童・保護者による選書会の実施

- 児童は、選書会でいろいろなジャンルの本に関心を持ち、選書会の新着図書コーナーは読書意欲の向上につながった。
- 職員以外に、保護者や読書ボランティアさんにも参加いただき、様々な視点から選書ができた。

2 「家庭読書の日」の設置

- 「親子で読書を楽しんでいる。」などの声が寄せられ、家庭読書の意欲向上につながった。
- 1か月の平均読書冊数が11冊以上の児童の割合が、前年度と比較し12パーセント増の約36%となった。

3 移動書架の設置

- 高学年の教室近くに設置したところ、短時間でも読書する高学年児童の姿が見られた。
- キャリア教育に関する図書を常時配架することができた。

4 調べ学習の充実

- 古い図鑑等を更新し、付録のDVDも貸し出すことで、図鑑を利用する児童が増えた。
- 折り畳みコンテナを利用し、学習活動に関する図書室の本を学級に貸し出す回数が増えた。
- 図書費で4～6年の学級文庫を一部更新し、読書への興味関心を高めることができた。

目標の達成状況

- 学校図書館を利用し、年間30冊以上読書した児童は約56.8%であり、目標値を達成できた。
- 児童生徒の1か月の平均読書冊数が増加し、学校図書館以外でも興味を持って読書に取り組む児童が増えた。更に、家読の意識向上を目指して、今後の取組を検討していきたい。

取組を振り返って

- 児童一人当たりの貸出冊数は、昨年比で微増だが、年間10冊以下の貸出冊数の児童が半減した。
- 図書室には古い本が多いため、児童は読みたいジャンルの本棚だけを利用する傾向があるが、選書会で様々なジャンルの本を数多く手に取り、本への興味関心が広がった。
- 読書環境を整えることで図書室に借りに行かなくても、読書する機会を広げることができた。
- 今後は家読の習慣化を図るための工夫、教職員の働きかけの工夫を検討し、図書室の利用促進や読書習慣の向上を目指していきたい。

◆ 注目 POINT ◆

- 「家庭読書の日」の設定や「家読本の紹介」など、保護者の読書活動に対する意識向上を図っている。
- 教室近くへ移動書架を常設したり、学級貸出の利便性を高めたりすることで、本に親しむ機会を増やし、読書量の増加につなげている。

栗生小学校

【児童数：680人】

(R元. 5. 1現在)

◆ モデル校としての目標 ◆

児童の豊かな人間性を養うために望ましい読書習慣の育成を図る。読書を通して豊かな感受性を養うことで、挨拶など人とかかわる心地よさにつなげていく。(校内研究 外国語活動)

学校における読書や学校図書館の状況・課題

- 学校行事や季節のイベントに関連させた掲示や図書の紹介などについて、内容が充実している一方で、児童の活字離れが進んでいる。
- 学校図書館の環境を充実させることで児童に読書の楽しさを実感させたい。

取組内容 ※【新】=新規取組 【継】=継続取組

1 学級文庫(巡回文庫)等の充実【新】

- 図書委員が高学年向けの本を選定し、移動式書架で高学年教室の廊下に設置した。
- 学年からの要望に応える形で、一定期間、学年に貸し出す本の冊数を増やした。
- 教科書関連本用の専用のカードを作り、本も移動式本棚にまとめて取りやすいようにした。

【移動書架】



2 校内行事や季節のイベントと関連させた図書の紹介【継】

- 図書事務員の方が季節に合った掲示物を工夫して掲示した。
- 図書委員が定期的におすすめの本を展示し、選んだ本にはおすすめする理由も付けて、図書室の入り口付近のテーブルの上に、表紙が見える形で展示した。

【図書委員のおすすめ】



3 表彰の機会を増やす【継】【新】

- 学期ごとに貸し出し冊数の多い児童を表彰した。(継)
- 教科書に出てくる本の中から10冊を指定し、全て読んだ児童を表彰した。(新)
- 仙台市の冊数目標を超えた児童に対してはミニ賞状で表彰。(新)

4 全校一斉の朝の読書タイムに、低学年への英語の本の読み聞かせの実施【新】

1～2年生を対象として、ALTが来校する木曜日に英語の本を読み聞かせをした。

取組による効果

1 学級文庫(巡回文庫)等の充実【新】

- なかなか図書室に足を運ばない児童が本を目にする機会を作ることができた。
- 書架が増えたことで、本が見やすく手に取りやすくなり、借りやすい状況を作ることができた。

2 校内行事や季節のイベントと関連させた図書の紹介【継】

多くの児童が興味を持ち、多数の利用があった。図書事務員による目を引く掲示物も児童がよく見ていた。

【低学年の英語の本の読み聞かせ】

3 表彰の機会を増やす【継】【新】

賞状をもらえることを励みに、本を借りる児童が増えた。

4 全校一斉の朝の読書タイム、低学年への英語の本の読み聞かせの実施【新】

- 国際理解の本や英語の絵本を購入したことにより、低学年の朝の読み聞かせを充実させることができた。
- 高学年の英語学習における調べ学習などで児童が調べたい情報を十分に提供することができた。



目標の達成状況

- 読書冊数は、全体的には昨年度24冊から今年度32冊となり、33%増加した。多くの児童に読書の楽しさを味わわせ、より一層様々な本に親しもうとする態度を培うことができた反面、本を読むことにあまり興味を持ってない児童もまだ少なくなかった。
- 協働型重点目標の柱の一つが「進んで挨拶できる子」である。ALTの先生と低学年の児童と一緒に活動できる時間が増えたことで、アイコンタクトなどの意識が高まり、挨拶の活性化にもよい影響があった。

取組を振り返って

- 教科書関連の本に興味を持ってもらおうと教科書関連本用の専用のカードを作ったが、興味を持って取り組む児童が少なかった。理由としては、興味を持って読もうとする本の範囲が狭いことが考えられる。様々な分野の本を読もうとする態度を持てるように、今後も働きかけを工夫していく。
- 英語の大型絵本による読み聞かせは、ALTの先生と低学年の児童と一緒に活動できる新しい機会となった。低学年の児童は、本を通して英語をまねしたり、絵本を見ながら英語の音声に慣れたりすることが無理なくできた。英語で書かれた本の日本語版を探して読み直す姿も見られた。

◆ 注目 POINT ◆

- 賞状が励みになるように（学期ごとに多読賞・教科書に出てくる指定された本を読んだ人に賞状・仙台市の目標冊数を読んだ人に賞状と3種類を渡した。）
- 外国語の本を購入して低学年にALTの先生が読み聞かせ（挨拶に好影響があり、外国語の絵本を日本語で読み直す児童もいた。）

錦ヶ丘小学校

【児童数：1,104人】

(R元.5.1現在)

◆ モデル校としての目標 ◆

学校、家庭での読書習慣の確立を図り、児童の学校図書館における1人あたりの年間平均貸出冊数（全児童平均）50冊以上を目指す。また、利用しやすい図書館を目指して、館内の学習環境を整える。

学校における読書や学校図書館の状況・課題

- 一人当たりの年間貸出冊数は年々伸びてきているが、保護者アンケートにおける家庭での読書時間は伸びていない現状がある。
- 児童数が多いため、学習に使う図書が不足する場合がある。

取組内容 ※【新】=新規取組 【継】=継続取組

1 児童・保護者・教員による選書会の実施【継】

校内での展示会を行い、児童・保護者・教員が本の裏表紙に付箋を貼ることによって選書できるようにした。付箋の数が多いものから順に予算に応じて図書を購入した。

2 読書賞の設定【継】

年度末に学年の多読者1～10位に対し表彰を行った。

3 「家読」の奨励

- 長期休業中に読書の課題に取り組みさせるなど、各学年で、児童の実態に応じた取り組みを工夫して行った。【継】
- 毎月第3土曜日を家読の日として設定し、学校便りで周知した。【新】
- 家読に関するアンケートを実施し、その結果を基に「家読おすすめの本」の掲示物を作成し、PTAの祭り「コスモフェスタ」にて、地域・保護者に紹介した。【新】

【家読アンケート結果の掲示】



4 読書記録カードの活用【新】

児童に学校や家で読んだ本をカードに記録させ、10冊ごとに「しおりプレゼント」や「1SOKP（1冊多く借りられますポイント）」を付与した。

【郷土資料コーナー】



5 郷土資料コーナーの設置及び郷土資料の充実【新】

- 地域の方や教員に働き掛け、総合的な学習の時間等で使用する郷土資料を収集した。
- 図書費で仙台市博物館より学習関連資料を購入した。
- 備品購入費で本棚・学習テーブルを購入し、学習スペースを設置することで、郷土資料コーナーとした。

【「本日のおすすめ本」の展示】



6 おすすめの本のコーナーの充実

- 図書委員会による取り組みとして、おすすめの本の紹介カードを展示した。【継】
- 図書事務員による取り組みとして、テーマごとに「本日のおすすめ本」を展示、新しい本と出会う機会を作った。【新】

取組による効果

- 家読の日の設定やアンケートの実施により，児童・保護者の家読に対する関心を高めた。
- 読書記録カードの活用により，児童の図書館利用が促進された。
- 郷土資料コーナーを設置することで，先生方や地域の方々の協力を得られやすくなり，学校図書館に貴重な地域資料を数多く集めることができた。
- 図書事務員による日替わりの「おすすめ本」の展示により，児童の読書の幅が広がった。

目標の達成状況

- 児童の学校図書館における1人あたりの年間平均貸出冊数は57冊となり，目標としていた全児童平均50冊以上を達成した。
※児童数48%に当たる530人が50冊以上達成。
- 「家読を知っている」「子供が読書した」と回答した保護者が全体の67%となった。
(保護者アンケート6月より)
- 図書館内の学習環境が整い，調べ学習等で利用しやすくなった。

取組を振り返って

- 家庭での読書時間が伸びていない現状を踏まえ，今年度は家読を積極的に働き掛けていく様々な取り組みを行った。今年度における保護者アンケートの結果により，一定の効果は果たせたと考える。今後も，児童や保護者に読書への関心を高めてもらえるように，学校側が積極的に働き掛けていく。
- 郷土資料コーナーを設置したことにより，地域に眠っている貴重な学習資源を掘り起こし，それを学習教材として役立てることは，学校図書館の役目であり使命であることに改めて気付かされた。今後は，収集した地域資料を児童や教員に効果的に活用してもらうための手立ても一層講じていきたい。

◆ 注目 POINT ◆

- 毎月第3土曜日を家読の日として設定し，全校で「家読」に取り組んだ。
- 郷土資料を展示したり，学習スペースを設置したりして，郷土資料コーナーを新設した。

南光台東中学校

【生徒数：177人】

(R元. 5. 1 現在)

◆ モデル校としての目標 ◆

生徒・教職員が利用しやすい図書館の環境づくりを目指し、全校年間貸出平均値を上げる。

学校における読書や学校図書館の状況・課題

- 読書の習慣が身に付いている生徒とそうでない生徒との差が大きい。
- 令和元年度平均読書冊数は、「1か月に1冊も本を読まない生徒」は98人と5割近くに上る。
- 来館した生徒が実際に本を手にとって読書をし、図書の貸し出し利用につなげることが課題である。

取組内容 ※【新】=新規取組 【継】=継続取組

1 テーマを設定し、関連本を期間限定で展示・貸出【継】

テーマ展示をすることで、興味をひく図書の配置を行った。春夏秋冬の行事に関連した展示をすることで、本を手に取りやすいよう工夫した。

【食関連の展示】



2 「校長先生のおすすめの本」コーナーの設置【継】

毎月2～3冊の本を校長先生が紹介した。テーマは設定せず、職員玄関前や校長室前の廊下に推薦コメントと共に展示した。

【校長先生のイチオシ】



3 図書だよりの発行【新】

新書の紹介や推薦図書、開館状況の連絡に活用した。

4 全校ブックトークの実施【新】

- 様々なジャンルの本の魅力を伝えるために、ブックトークを実施。
- 1・2年生では「友」「部活動」を、3年生は進路面を意識し「人生の選択」「決断」をテーマに行った。

【「いじめ・不登校等」関連コーナー】

5 「いじめ・不登校等」に関連したコーナーの新設【新】

事業費を活用し、いじめや不登校についての図書を充実させ、図書館内に専用のコーナーを設置した。



6 「お薦めの本」のポスター作成【新】

図書委員は学級ごとに、2年生は国語の授業として、自分の薦める本のポスターを作成。図書館内や廊下に展示した。

取組による効果

1 テーマを設定し、関連本を期間限定で展示・貸出

興味を惹く図書があることで、図書館内で本を手にとって閲覧する生徒が増えた。

2 「校長先生のおすすめの本」コーナーの設置

- 校長先生が推薦した本で、読書感想文を書いたり、逆に校長先生に面白かった本を紹介したりする生徒がいるなど、生徒と職員との新しいつながりが生まれた。
- 「心に残った言葉」の引用と校長先生のメッセージを添えて図書館内と玄関に設置したところ、来校者に大変好評であった。

【ブックトーク】

3 図書だよりの発行

- 読書感想文の課題図書や推薦図書の周知につながった。
- 3年生が国語の授業で実施した「お薦めの本」について掲載したところ、身近な先輩の薦める本についての興味が高く、下級生の読書意欲向上につながった。



4 全校ブックトーク

仙台市図書館ブックトークボランティア「ランプ」の皆さんに来校いただき、国語の授業を使って各学年でブックトークを実施。「主人公が自分の立場と重なり、励まされる内容で勇気もらった。」など、自分自身のこととして捉える感想が多く寄せられ、実りある時間となった。

5 「いじめ・不登校等」に関連したコーナーの新設

道徳の授業で紹介したり、保護者会で紹介したりするなど、教職員に役立っている。

6 「お薦めの本」のポスター作成【新】

友達が薦める本への関心は高く、ポスターを見て感想を述べ合うなど、選書の幅が広がった。

目標の達成状況

- 授業で図書館を使用する回数が増えたことで図書館の利用回数は増えた。
- 新しい本の紹介を頻繁に行っていたため生徒の本への興味は低くはなく、開館時には多くの生徒が図書館で本を手取る姿を見るようになった。
- 1か月の平均読書冊数は全体的に増加し、1冊も読まない生徒の割合は3割まで減少した。

取組を振り返って

様々な取組を生徒に提示することが有効であることが明らかになった。有効である取組については、テーマ展示のテーマの幅を広げたり、ポスター作成に限らずポップ作成をしたりするなど、更に工夫を重ねたい。模索しながら継続してより良い図書館の環境作りを実践していきたい。

◆ 注目 POINT ◆

- ブックトークを、国語の「読書活動」と関連させて授業に組み込み実施することで、事前・事後のきめ細やかな指導が展開できた。また、事後には図書館の利用回数が増えた。
(補足) 東中の図書館は授業や集会など、様々な教育活動に対応できる選書・書架配置と備品を有した「生徒・教職員が利用しやすい図書館」という点で、大変優れていると思う。

宮城野中学校

【生徒数：672人】

(R元. 5. 1現在)

◆ モデル校としての目標 ◆

学校図書館の環境整備や、保護者・生徒への読書活動の啓発を行うことで、月平均3冊以上読書をする生徒の割合を7割以上にする。

学校における読書や学校図書館の状況・課題

- 1か月の平均読書量について、本校生徒の約7割が0～2冊と回答しており、宮城県平均3.8冊と比べて少ない傾向が見られる。(平成30年度子ども読書活動に関するアンケート調査より)
- 学年が上がるにつれて年間の読書量が低下する。

取組内容 ※【新】=新規取組 【継】=継続取組

1 読書活動推進の取組の強化【継】

講師を招いての、ビブリオバトル[※]や、ブックトークなど、読書活動の推進に関わる取組を強化し、生徒が良書に触れる機会を増やした。

※ビブリオバトル・・・みんなで集まって5分で本を紹介。読みたくなった本に投票して「チャンプ本」を決定する、書評会。

【ブックトーク】



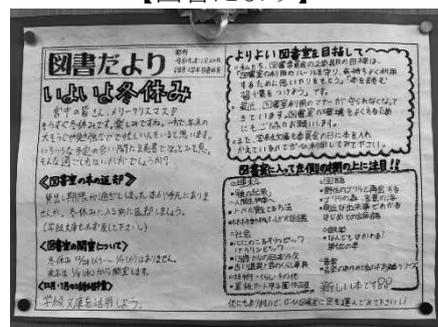
2 優良読書賞の設定【継】

学校図書館での年間貸出冊数の多い生徒を表彰した。

3 保護者・生徒への読書活動の啓発【継】

図書日より等を活用し、保護者・生徒へ向けた図書紹介など、読書活動の啓発を行った。

【図書日より】



4 生徒による選書会【新】

図書委員会の生徒とともに選書会を行い、選書した本を置く書架を設置した。

5 購入図書・備品を活用した読書活動の啓発【新】

ブックトーク等のイベントに合わせて、今回購入した移動書架を活用し、図書紹介をした。

取組による効果

1 生徒による読書活動推進の取組の強化

ビブリオバトルやブックトークで、紹介して頂いた本を図書室に展示したところ、「普段読まない本にも興味をもった」という生徒の感想もあり、読書の幅を広める効果があった。

2 優良読書賞の設定

図書の年間貸出冊数が多い生徒を各学年3名ずつ表彰。400冊を越える図書を借りた生徒もあり、図書便りで周知することで、生徒に図書室の利用を促すことができた。

3 保護者・生徒への読書活動の啓発

図書便りを年間で3回発行。読書感想文コンクールの課題図書や、図書室で貸出数が多い図書を紹介したところ、図書便りを見て図書室に足を運んだ生徒もおり、図書館からの情報発信として効果的だった。

【移動書架の活用】

4 生徒による選書会

- 5月に全校生徒から購入図書のアンケートを取り、選書に生かすことができた。
- 毎年夏に図書事務と図書館担当が行っている図書見本市に、図書委員会代表生徒も加わり選書をしたことで、生徒からの意見・要望を生かした選書ができ、生徒の図書室利用の一助となった。



5 購入図書・備品を活用した読書活動の啓発

ブックトーク等のイベントに合わせて、今回購入した移動書架を活用し、図書紹介をした。展示した図書を借りていく生徒もおり、読書の幅を広げる効果があった。

目標の達成状況

- 月平均3冊以上読書をする生徒の割合は約3割と、「7割以上」という目標に届かなかった。しかし、平成30年度の月平均3冊以上読書をする生徒の割合約2割と比較すると、今年度の生徒の読書量は増えており、取組の効果があったと言える。
- 図書室からの情報発信や読書活動の推進に関する取組が、生徒の読書推進により密接に効果をもたらすようにすることが今後の課題である。

取組を振り返って

- 生徒の読書活動を推進するため、良書に出会う機会を増やそうと取組を行った。特にビブリオバトルや、ブックトークでは、本物の語りで良書に触れる機会をつくれたと実感している。生徒も、生き生きとした表情で、本の世界に引き込まれているのが分かった。また、イベントを機に、図書の特設コーナーを設置したことも、生徒にとっては読書のきっかけとなった。
- 学校図書館には様々な機能があるが、それを効果的に引き出すことが我々の役割だと考える。良書に出会うきっかけ作りや、学校図書館の活用の仕方を指導していくことを大切にしていきたい。
- 来年度は、生徒の月の平均読書冊数を1冊増やせるような取組を考えていきたい。そのために、今後も様々な指導の工夫を考えていきたい。

◆ 注目 POINT ◆

- スペシャリストを招いてのビブリオバトルやブックトークで、良書に触れる機会を増やし、生徒の読書の幅を広げた。
- 図書便りでの情報発信や、優良読書賞の表彰などで、生徒の図書室利用への感心を高め、来室者数の増加につなげた。

鶴谷特別 支援学校

【児童生徒数：154人】

(R元. 5. 1現在)

◆ 事業実施目標 ◆

本校の教育目標達成のために、図書館の機能を十分活用できるようにする。本校の教育課程の展開に寄与し、児童・生徒の望ましい学習態度と健全な教育の育成のために資する図書資料を収集・整理し、これを児童・生徒職員の利用に供する。

学校における読書や学校図書館の状況・課題

- 本校の児童生徒の読書傾向及び実態に合った図書を購入し、蔵書の充実を図ることが課題である。

取組内容 ※【新】=新規取組 【継】=継続取組

- 1 購入希望図書のアンケートを実施、回収と分析（6月）【継】
教員に児童・生徒用図書の購入希望調査アンケートを実施し、児童生徒に読ませたいと思う本の選定・購入の資料とした。
- 2 図書選定と購入（7～8月）【継】
購入希望アンケートを元に、図書情報部員9名で（株）トーハンにて選書・購入した。
- 3 貸し出し準備（展示紹介）、貸し出し開始（10月）【継】
購入した本を廊下に展示披露した後、図書室に本を移動し、貸し出しを開始した。
- 4 「立ち読み処」の充実（通年）【継】
2か所設置している「立ち読み処」に、季節ごとにお薦めの図書を展示した。
【図書情報部員による
「お薦めの本」コーナー】
- 5 図書室の環境整備（掲示物）（通年）【継】
図書室が児童・生徒にとってより親しみやすい環境になるよう、掲示物を工夫して環境を整えた。
図書情報部員でモビールを制作し、天井に飾って図書室内を明るい雰囲気を出した。また、読書感想画コンクールのポスターの絵を図書室前の廊下に掲示し、児童・生徒が絵を見て楽しめるようにした。
- 6 おすすめ図書の紹介コーナーの設置【継】
図書室の本の中から、図書情報部員が一人一冊選び、写真入りで本のおすすめポイントを紹介する掲示物を作成し掲示した。
- 7 「本の病院」の設置（通年）【新】
●これまで、児童・生徒が破損した本は、担任が図書情報部員にその旨を伝え、返却していた。平



成 31 年度の新たな試みとして、児童・生徒自身が破損した本を図書室に返却できるように、「本の病院」というポストを設置。

- 破損した本（怪我をした本）を修理してもらう＝直す（治す）という意味で、児童・生徒に物を大切に使う気持ちを育てることをねらった。

8 小学部・中学部に移動書架を設置（通年）【新】

児童・生徒の身近にいつも本があり、読みたいときに読める環境を整えるため、昨年度高等部に設置した移動書架に加え、小学部と中学部にも移動書架を購入し設置した。

取組による効果

1 購入希望図書のアンケートを実施、回収と分析

職員全体に希望図書のアンケートを実施したことにより、児童・生徒の実態に合った希望図書を集約することができた。

2 図書選定と購入（7～8月）

- 先生方から出された購入希望図書は、絶版の図書は除き、全て注文することができた。
- 図書情報部員で選書し購入することができた。
- 重点配当分で57冊購入することができた。
- 学級で読み聞かせに活用できる大型絵本を多く購入することができた。

3 貸し出し準備（展示紹介）、貸し出し開始（10月）

- 職員室前の廊下に長机を設置し、購入した全ての本を並べて展示した。多くの職員が本を手に取り、学級で活用できる本を探す姿が見られた。
- 新しい本に興味を持ち、本を手にする児童生徒の様子も多く見られた。

4 「立ち読み処」の充実（通年）

- 校舎2か所に「立ち読み処」というコーナーを設け、季節に合わせた図書の紹介を行った。
- コーナーに気付いた児童生徒が立ち止まり、本を手取る姿が見られ、読書への関心が高まっている様子がうかがえた。

【図書室前の掲示】



5 図書室の環境整備（掲示物）（通年）

- 図書室の入り口の壁面に、「読書感想画コンクール」のカレンダーの絵を貼って掲示した。
- 気に入った絵の前に来ると、じっと見つめたり、触ったりする児童が見られた。
- 図書室内の天井に飾られたカラフルなモビールは、図書室の雰囲気が明るくなり、児童・生徒がより図書室に親しめるようになった。

6 おすすめ図書の紹介コーナーの設置

写真と一緒に、実際の本も展示したことから、教室を移動するときに掲示物を見るだけでなく、本を手にとって見る児童生徒もおり、読書や図書への関心を高めることができた。

7 「本の病院」の設置（通年）

- 「本の病院」のポストを置くことにより、破損した本がそのまま図書室に戻されることが減った。児童生徒が本を破損してしまったら、「怪我をしたから病院に連れて行こう。」と教師が促し、児童生徒自身が「本の病院」のポストに破損した本を入れることができた。
- 本校の児童生徒に対して、物を壊したことについての指導は難しく、実態に応じて対応していた。「本の病院」を設置してから、破損を怪我や病気という児童生徒にとって分かりやすい事柄に例えることで、物を壊さないように大切に使用するという気持ちを育てるきっかけを作ることができた。

8 小学部・中学部に移動書架を設置（通年）

- 昨年度は、図書室から離れている高等部棟に移動書架を設置した。昼休みなどの自由な時間を利用して本を読む生徒の姿が見られ、読書への興味関心の向上を図ることができた。
- 今年度は小学部棟と中学部棟に移動書架を設置。各学部で利用の仕方を検討し、利用を開始した。小学部は教室に持って行き自由に読書を楽しむ利用方法、中学部は所定の場所に設置し、いつでも本を読める方法にした。
- 全ての学部で本が身近にある環境を整えたことにより、これまで以上に児童生徒が本を気軽に手に取ることができるようになった。

【移動書架の利用の様子】



目標の達成状況

- 蔵書について、職員への希望図書アンケート実施により、児童生徒が親しむことができる書籍を充実させることができた。特に大型絵本は児童生徒に人気があるので、図書室に豊富に用意することで、多くの先生方が学級での読み聞かせに活用できるようになった。
- 「本の病院」は、物を大切にすることを育てる新しい試みとして、継続して取り組んでいきたい。
- 各学部に設置した移動書架については、学部ごとの実態に合わせた利用を行うことで、児童生徒がいつでも本を読める環境を整えることができた。

取組を振り返って

- 今年度は、蔵書の充実を図るだけではなく、図書室の環境整備にも力を入れることにより、図書室の機能を高めることができた。
- 環境を整備することで、児童生徒が図書室を利用するときに楽しく明るい気持ちになり、想像力を膨らませることができるようになった。
- 今後も、児童生徒がより読書に親しめるような図書室を目指して、環境を整えていきたい。

◆ 注目 POINT ◆

- 移動書架を各学部に設置したことで、これまで以上に児童生徒が本を気軽に手に取って親しむことができるようになった。
- 「本の病院」を設置したことで、本の破損を怪我や病気という児童生徒にとって分かりやすい事柄に例え、物を大切に使おうという気持ちを育てるきっかけを作ることができた。

(3) 令和元年度モデル校事業の総括・今後

各モデル校において、その学校の状況に応じた子どもの読書や学校図書館活用に関する課題を見出し、解決に向けた取組が行われました。

小学校では、折りたたみコンテナや移動書架を利用した図書整備を行うことで、本を手に取りやすい環境をつくり、子どもの本に対する興味・関心を引き出す手法が多く見受けられました。

また、保護者や地域とともに、子どもの読書の重要性や活動の協力を働きかけ、子どもの読書活動の推進を図り、子どもが自ら図書館運営に携わる機会を増やすことで、図書館・読書への関心を引き出し図書館の活性化が図られました。

中学校では、テーマを設定した図書展示、「ビブリオバトル」という取組を行うなど、読書への興味関心を引き出す工夫が多く見受けられました。様々なジャンルの本の魅力を伝える機会をつくらうとする取組は、生徒の図書館活用・読書推進を図り、読書の楽しさを伝える効果的な取組となっています。

特別支援学校では、読書を通じて「物を大切にすること」を学ぶという新しい取組が行われました。読書を通じて、思いやりの心を育て、想像力を育むという、読書の可能性が広がりました。平成30年度から引き続き図書環境の整備にも力を入れていただき、全学部で移動書架を設置したことで、子どもたちにより読書を身近に感じてもらえる環境になったと考えています。

どのモデル校も、児童生徒の読書活動推進はもちろん、保護者や地域住民など、その周囲の人の読書に対する意識向上も図り、子どもの読書活動を支える環境を整えるように工夫を凝らした取組が実施されていました。

各モデル校には、今回の事業の実績を踏まえて次年度以降の目標や実施内容を検討し、引き続き取組を推進していただければと存じます。また、令和元年度の実施内容や、実施した結果、新たに明らかになった課題などを他校にも積極的に共有していただくことで、本市における学校図書館の更なる効果的活用や子どもの読書活動推進に努めていただきたいと思います。

結びに、真摯に活動に取り組まれた令和元年度学校図書館運営モデル校の先生方及び図書事務の方、並びに事業実施へのご支援・ご協力をいただきました関係各位に心から感謝申し上げます。